

# 21世紀生活圈研究会 試行的調査(相模原・町田地域)

---

関東地方整備局  
平成20年12月16日

# 相模原・町田地域の概要(1)

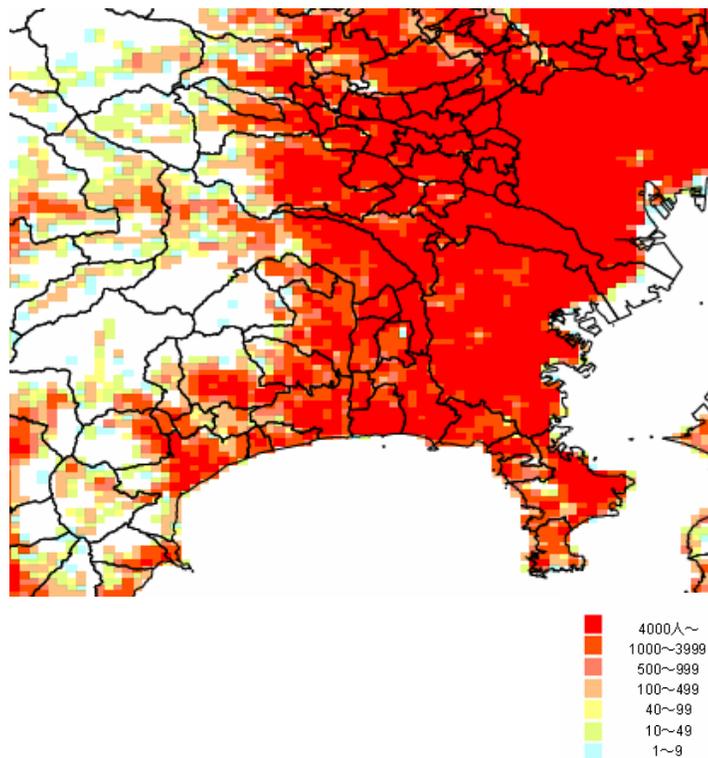


- 高規格幹線道路
- - - - 圏央道(建設中)
- 一般国道
- 鉄道

項目	町田市	相模原市	
人口動態 (H19年中)	出生	3,287人	出生 6,245人
	死亡	2,766人	死亡 4,421人
	転入	20,223人	転入 33,067人
	転出	18,308人	転出 32,506人
	農業 (H17.2.1) (販売農家 + 自営的)	農家数 1,072戸 農業従事者数 2,127人 経営耕地面積 331%	農家数 976戸 農業従事者数 4,029人 経営耕地面積 664%
事業所 (H18.10.1)	事業所数 12,006 従業者数 134,185人	事業所数 23,974 従業者数 247,594人	
	工業 (H17.12.31) (4人以上)	事業所数 341 従業者数 5,493人 年間出荷額 781億円	事業所数 1,248 従業者数 42,500人 年間出荷額 15,432億円
商業 (H16.6.1)	卸売・小売業 商店数 3,103店 従業者数 28,565人 年間商品販売額 7,501億円	卸売・小売業 商店数 5,684店 従業者数 47,295人 年間商品販売額 13,028億円	
	教育 (H19.5.1)	小学校 40校 中学校 20校 高校 13校(高専1校を含む) 大学・短大 10校 幼稚園 36園	小学校 76校 中学校 40校 高校 21校 大学・短大 9校(内大学校1) 幼稚園 53園
医療 (H19.3.31)	病院 19 診療所 518(歯科含む) 医師 905人(歯科含む) (H18.12.31) 病床数 3,982床	病院 35 診療所 706(歯科含む) 医師 2,004人(歯科含む) (H18.12.31) 病床数 8,174床	
	社会福祉 (H19.4.1)	保護率 11.4パーミル (2007年3月分) 保育園 48園 特別養護老人ホーム 14カ所 養護老人ホーム 1カ所 老人福祉センター 6カ所 (高齢者福祉センター)	保護率 9.94パーミル 保育園 67園 特別養護老人ホーム 22カ所 養護老人ホーム 1カ所 老人福祉センター 4カ所
予算 (H20年度当初)	一般会計 1,201億円 特別会計 990億円	一般会計 2,032億円 特別会計 1,267億円	
市職員 (H20.4.1)	2,818人 出典: 第41号町田市統計書	4,715人 出典: 相模原市平成19年版統計書 合併前を調査時点とする項目は 旧4町の数値を含む	

	相模原市	町田市
・市制施行:	昭和29年11月20日	昭和33年2月1日
・面積:	328.84km <sup>2</sup>	71.63km <sup>2</sup>
・人口:	706,295人	412,337人
・世帯:	292,551世帯	173,077世帯
・人口密度:	2,148人/km <sup>2</sup>	5,748人/km <sup>2</sup>

## 相模原・町田地域の人口分布



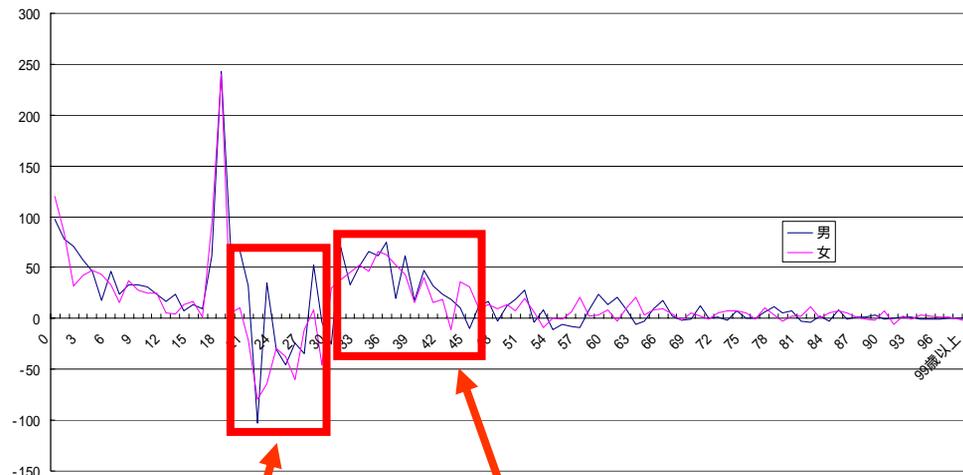
(旧)相模原市及び町田市地域は全域4000人/km<sup>2</sup>以上

\*人口密度: 相模原市 2,148 /km<sup>2</sup>

町田市 5,748 /km<sup>2</sup>

(市HP統計資料)

## 町田市の人口増減(2006年 2007年)



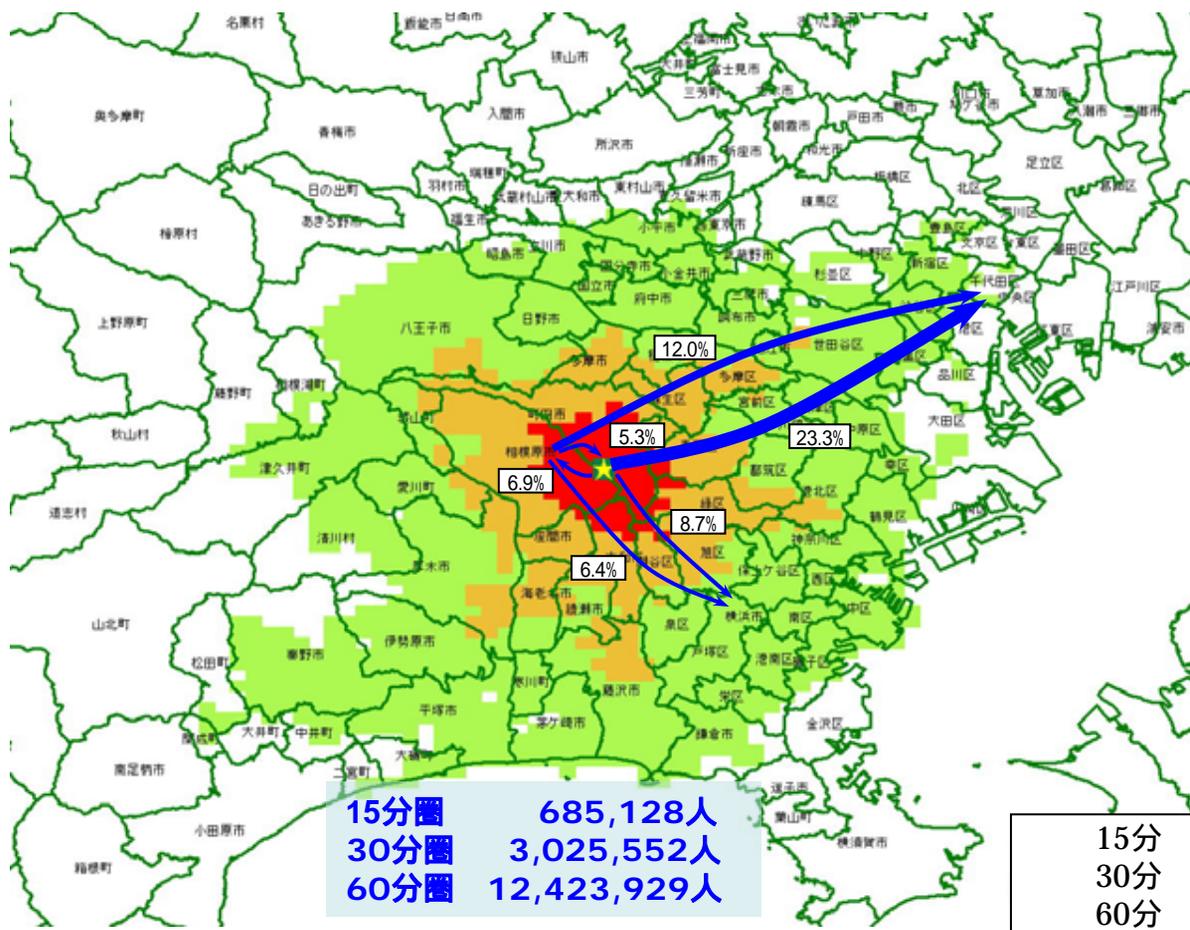
20代女性の減少。

30代男女の流入。その後の人口定着。

出典: PHP総合研究所 宮下量久「新たな業務核都市の可能性」

町田市の特徴としては、18歳で男女とも増え(大学の立地)、20代で男性は増減しているが、女性は減少しているのが特徴。しかし30代になると男女とも増えている。

## 相模原・町田地域の通勤・通学率と時間距離

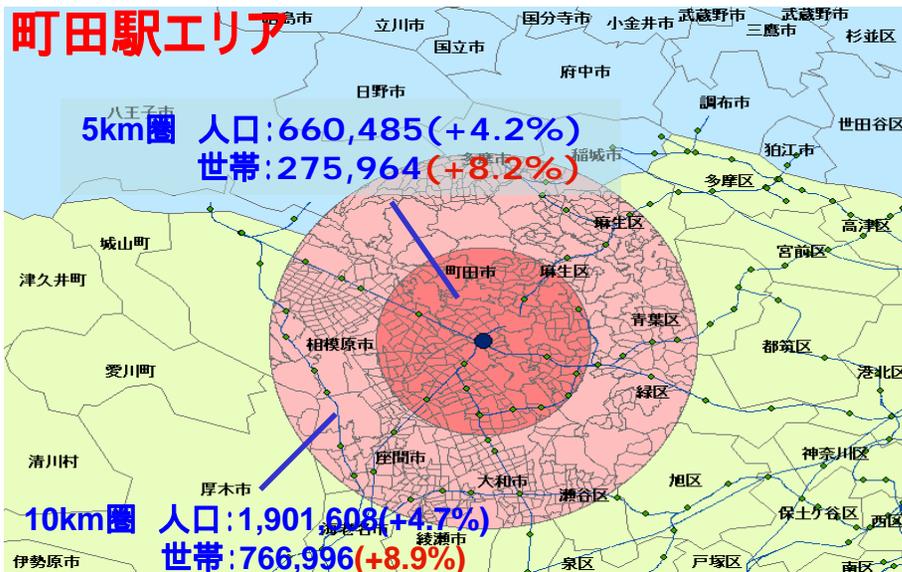


出典：PHP総合研究所 宮下量久「新たな業務核都市の可能性」

- ・東京特別区・横浜市への通勤・通学流動が大きい
- ・相模原市と町田市間の通勤・通学流動もある

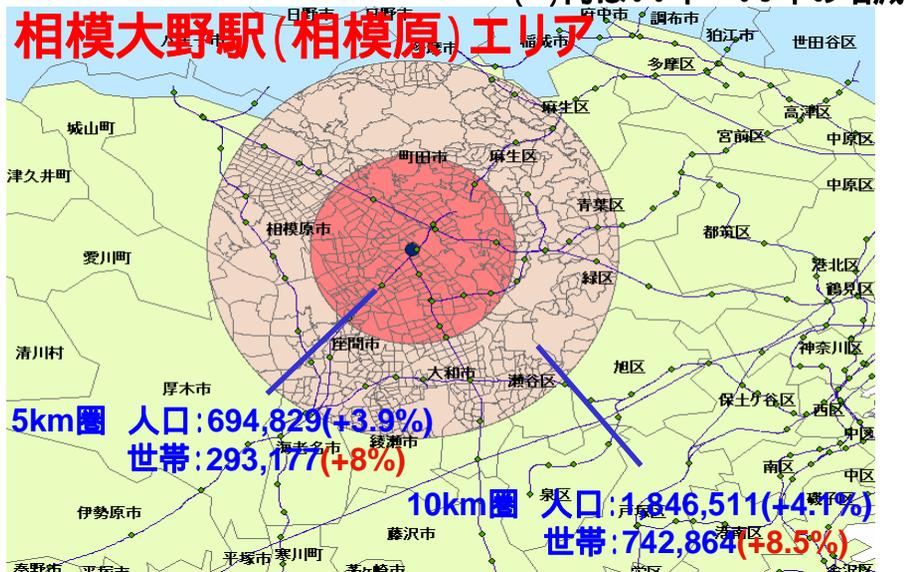
# 相模原・町田地域の駅を中心とした人口エリア

## 町田駅エリア



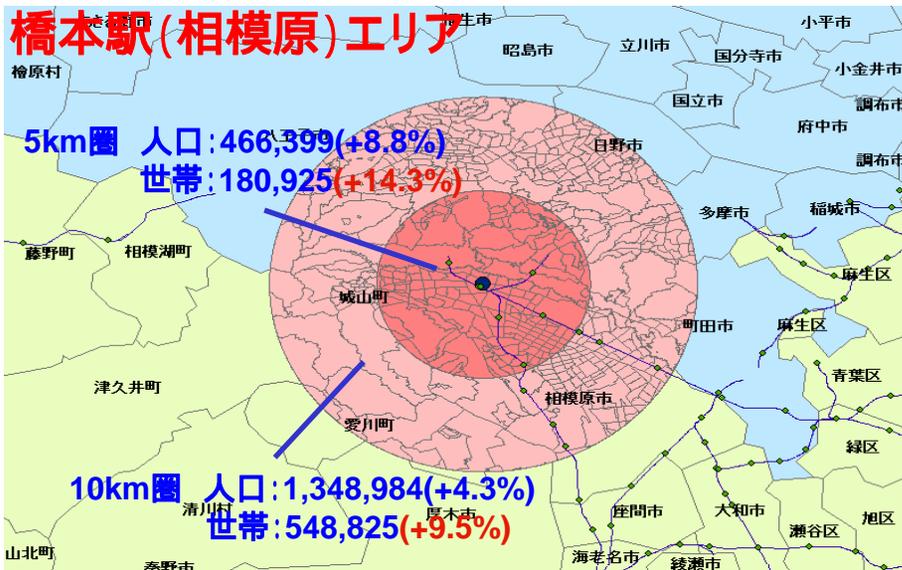
出典: PHP総合研究所 宮下量久「新たな業務核都市の可能性」

## 相模大野駅(相模原)エリア



出典: PHP総合研究所 宮下量久「新たな業務核都市の可能性」

## 橋本駅(相模原)エリア



出典: PHP総合研究所 宮下量久「新たな業務核都市の可能性」

### 駅を中心とした人口エリア

町田駅を中心とした5km圏で66万人、10km圏では190万人。  
相模大野駅を中心とした5km圏で69万人、10km圏では185万人。  
橋本駅を中心とした5km圏で47万人、10km圏では135万人。

- ・10km圏人口では、札幌市や神戸市といった政令市規模のポテンシャルがある。
- ・5年間では人口増加よりも世帯数の増加が目立つ

## 強み

### 30代の人口(世帯数)が増加

- ⇒ 定住人口(子育て拠点)が増え働き手(税収)が増える。  
・財政調整基金への積立が増加し残高が増える。

### 相模原市・町田市相互で人の移動が増加

- ⇒ 交流人口が増え、金の流通も増える。  
・都心への流出は減り、相模原・町田及び八王子市間での交流が増えている。

### 近傍都市圏へ短時間で移動可能

- ⇒ 東京都心・横浜・湘南まで60分圏域。  
さがみ縦貫道路が供用開始されれば八王子圏まで30分圏域。  
(相模原市はリニア中央新幹線の駅誘致を要望、実現すれば大阪も60分圏域)

## 課題

### 東京都と神奈川県の間境が「バリアー」となっている。

- ⇒ 境川を約20km背にして一緒にいながら、公共サービス(教育等)が相互に提供されていない。  
・町田市の小学生が、相模原市内に自宅から近い学校があるにもかかわらず、バスで町田市内の学校に通学している。  
(聴取)

### 県境・行政区域を越えた連携が不可欠

- ⇒ **町田駅中心市街地整備**  
町田市民41万人のみのためだけでなく、町田駅10km圏域190万人のための整備が必要。(町田駅10km圏域の人口190万人の内75%の141万人は**神奈川県民**。)

### 学生の街が少子化による空洞化の恐れ

- ⇒ 相模原・町田地域にキャンパスを置く19大学が、少子化による学生確保等の学校経営方針変更のため、将来都心に再移転することも予想され地域が空洞化する恐れがある。

### 相模原市合併による公平な住民サービスの提供

- ⇒ 合併に伴う全国的な共通課題であるが、旧相模原市、旧津久井郡4町との合併前に受けていた公共サービス(保育料等)の均衡を図るため調整が必要。